

# 第2回 町民講座

# 自然エネルギーを活用した豊かな地域社会を目指して！

平成28年3月に策定しました「津別町モデル地域創生プラン」に基づき、本町の森林等の地域資源を活用した再生可能エネルギー利活用を検討する「第2回町民講座」を、2月9日（木）に津別町林業研修会館集会所で町民など43名の参加を得て開催しました。

## 再エネ町民講座の開催内容

町民講座は、地球温暖化対策や地域内資源による再生可能なエネルギーを活用し、資源と資金を地域内で循環することによる産業の継続と雇用の拡大、豊かな地域社会を作り出す施策について、共有を図ろうとするものです。

今回は、地域資源を活用したエネルギー事業の地域おこし請負人である那須俊男（なす・としお）氏を講師としてお招きし、高知県梼原（ゆすはら）町の自然エネルギーを活用した町づくりについて講演をしていただきました。また、町から「津別町エネルギーマネジメントマスタープランについて」情報提供を行い、講演終了後は、講演内容等について参加者とディスカッションを行いました。

## 講演 「自然エネルギーによる町づくり〜四万十川源流域における梼原町の挑戦〜」



岡山県西栗倉（にしあわくら）村 地域おこし協力隊（元高知県梼原町 役場職員）  
那須 俊男氏

〈プロフィール〉1965年兵庫県生まれ。関西学院大学文学部卒業後、東京の大手電機メーカー人材開発部に就職。その後実家のある関西に戻り大手建設機械メーカーなどを経て、父の看病のため高知県梼原町に移住し、梼原町役場に奉職。「環境モデル都市」の様々な実務を担当。平成28年4月から現職。その他に、（一社）兵庫再生可能エネルギー推進協議会代表



▲再エネ町民講座の開催状況

## 環境モデル都市

梼原町は、高知県の西北部、愛媛県との県境の町。雄大な四国カルスト高原を有する四国山地の山間地帯に属し、四万十川の渓谷と急峻な山々に囲まれた町。

町の面積2万3651haのうち91%が森林であり、人口3608人、高齢化率42%。また、坂本龍馬が脱藩した地として有名な町である。



▲上の図はイメージ

## 自然エネルギーの取組み

梼原町風力発電所（600kW×2基）は、四国カルストに風車を設置し、平成11年に運用を開始した。売電収入は環境基金に積み立て、森づくり（間伐

の促進と地域林業の活性化）に役立てている。公共施設に太陽光発電施設を23箇所設置（発電出力合計454・41kW）。また、一般家庭にも助成を行い131戸（16軒に1戸の割合。発電出力合計約500kW）が設置している。

小水力発電所を平成23年から稼働。発生した電気は、昼間は小中一貫教育校「梼原学園」の施設に供給し、夜間は町中の街路灯（82基）に供給している。町内3箇所には、四国電力が設置した水力発電所があり、町内使用電力の2・8倍の発電がある。

また、木質バイオマスの活用では、ペレット工場（第3セクターゆすはらペレット株式会社）が運営）を平成20年に建設。福祉施設や学校、ホテル等に木質ペレット焚冷暖房機・給湯器やペレットストーブを設置し、園芸ハウス用温風器も農家で利用されている。その他に、ゴミの固形燃料化（RDF）、生し尿の堆肥化、廃油を活用したBDFの製造・活用、地中熱を温水プールに利用している。

## 梼原町総合庁舎

梼原町の庁舎は、建築家隈研吾氏が設計。町産材を391㎡使用し、高齢化を見越した集約化（ワンストップ）、災害時の避難所を目的に平成18年度に建設された。庁舎には、役場の他JA、



▲梼原町総合庁舎

高知銀行、商工会、議場が入っている。庁舎のエネルギーは、太陽光発電パネル、地中熱利用、エコキュート（深夜電力ヒートポンプ）、深夜電力利用水蓄熱ヒートポンプ空調システム等を導入している。

## ディスカッション

コーディネーター（進行）  
一般社団法人産業環境管理協会



地域支援ユニッツ 部長  
壁谷 武久氏

〈プロフィール〉第1回再エネ勉強会でご講演。平成28年度広報7月号に詳細掲載。会場の参加者から提出された質問票に基づき、壁谷氏がコーディネーターとなり、講師の那須氏と参加者でディスカッション（意見交換）を行いました。その中のひとつの質問をご紹介します。

◆梼原町の新しい取組みにおいて、今日の住民はどうなっていますか。

（那須氏の回答）

◆今の西栗倉村は、梼原町の平成15年の時のように勢いがあって延びているところ。梼原町はやることやって小休止している状態。ここで歩みを止めたり、チャレンジしなくなると町が終わると言われており、走り続けなければならぬ。

延びている時代に頑張ってきた町民の世代は余生を楽しまれる期間になっている。結局は「人」。次の世代（40〜50代）のプレイヤーがいなくなったら終わり、その勢いを続けていくことが大切。バトンリレー（世代交代）をちゃんとやらないとダメである。先進地域であればあるほど大切である。と那須氏から回答された。

他にもFIT（固定価格買取制度）終了後の課題や自然環境への影響に対する回答しづらい質問にも親切・丁寧な回答いただいた。会場の参加者からは、「先人たちが

築き上げてきたものを絆でつなでいくことが大事である。教育を通じて自然エネルギーの良さを伝えてほしい。」という意見を最後にいただき、町民講座を終了した。



▲那須氏（左）と壁谷氏（右）

## 最後に

平成28年度の再エネ勉強会と町民講座はこれで最後となりますが、地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入による町づくりは、町民の皆様とともに今後も進めていきますので、引き続きご協力をお願いします。

## 問い合わせ先

産業振興課  
林政・再生可能エネルギー推進グループ  
☎76-2151（内線318）